

女性・母親・会社員の視点から小平の“未来”を創造します！



# 竹井 よこ 通信

第4号 (2015年4月発行)

小平の未来づくりネットワーク  
〒187-0041 小平市美園町1-1-15  
TEL/FAX: 042-207-1232  
E-mail: info@takeiyoko.com  
公式HP: http://takeiyoko.com/

発行元 小平の未来づくりネットワーク 代表 竹井 よこ

無所属

## 若者から高齢者まで、誰もが活力あふれる小平にするためには「助け合い」と「市政参加」が必要です

軽度認知症を加えれば、高齢者の1/4が認知症であることをご存知でしょうか。今後、急速な高齢化に伴い、介護を受けたいのに受けられない「介護難民」が、大都市部を中心に急増するといわれています。若い世代も、介護をする側・受ける側も安心して小平市で暮らしていけるようにするためには、市と市民の皆さんによる「助け合い」「市政参加」が必要です。

### ○小平市での要支援者向けサービス事業のあり方について

介護保険法の改正により、本年4月以降、国の介護保険給付から「要支援者」を対象とした「訪問介護・通所介護」が外れ、デイケアなどのサービスが3年以内に自治体へ移管されます。

このことに対しては、反対意見も含めさまざまな議論がありますが、小平市も現実問題として、国の法改正に対応していかなければなりません。介護行政のあるべき姿としては、まず、「要介護者」を増やさない取り組み（例えば認知症予防）を優先するべきです。

また、小平市の高齢化率は約22%ですが、地区によって10%～40%のひらきがあります。市とボランティアによる連携のもと、例えば、福祉に関する国や市の制度・取り組みを知らないことが原因で生活に困る高齢者を減らす活動や、高齢者の見守り活動などについては、市全体の「地域力」による「助け合い」を市政活用したいと考えます。

### ○介護サービスの担い手への支援が求められています

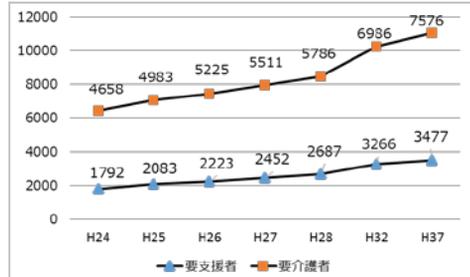
介護サービスの利用者数が伸び続けているのに対して、介護サービスを担う側の体制が危ぶまれています。報道によれば、介護職員の平均勤続年数は5年半程度で、月収は全産業平均に比べ約10万円低いとのこと。今後10年間でさらに70万人の介助者が必要とされる中で、ヘルパーさんなどが安心して働けるよう、各種環境整備に努めていきます。

### ○若者が積極的に政治へ参加する仕組みを提案します

小平市には6つの大学キャンパスがあり、20代の若者も多く在住しています。若者の声を市が拾い上げ、彼らが住み続けたい小平市とするためにも、例えば、学生が市長になったと想定し、10年先の「未来小平政策」を立案し、市長とディスカッションするなど、若者と市政のコラボレーションを積極的に提案していきたいと思えます。

## データでみる介護事情

### 小平市の要支援・要介護認定者数の実績と見込み



人口のうち65歳以上の割合を示す高齢化率は約22% (全国平均: 24.1%)。私たちの介護保険料と密接な関係にある要支援・要介護認定者数は、今後5年間で1.3倍以上となる見込みであり、小平市の介護保険料は10年後、基準月額8000円を超えることが想定されています。(現行基準月額は約4,700円)

\*グラフは平成26年11月小平介護保険運営協議会資料より作成

### 介護をしながら働く労働者、介護離職の現状

	H24.10	<無職含む介護者数>
介護中の被雇用者数	239.9万	H18年 533.7万人
過去5年以内の介護を主とする離職者数	48.7万	H23年 682.9万人
介護中の40～50代割合	73.7%	

働きながら介護する労働者が増え、子育てに一番お金がかかると言われる40～50代への介護負担が急増しています。介護・看護のために離職をした約8割が現在女性ですが、国からの介護補助が受けにくくなる中、介護難民・介護離職は、身近に迫りつつある問題です。

\*総務省H24就業構造基本調査、H23社会生活基本調査より作成

## 私たちが『竹井ようこ』さんを応援しています！！



小平市長  
小林 正則

千葉市長  
熊谷 俊人  
(元会社の仲間)



「竹井ようこ」は、女性・母親・会社員としての豊富な経験を活かして、将来を見据えた小平の未来づくりに取り組んでいきます。

